

絵本を通し戦前・戦後の保育の歴史を考える

A Study of Childcare History Before and After World War II Through Picture Books

矢野 日出子

要 旨

絵本の研究をしていて様々な気付きがある。優れた絵本が消えていく、極めて豪華な絵本が発刊されている、一体幼児へのメッセージは何なのか等々、「絵本について」を考えることは幼児教育の歴史を考えることでもある。更に言えば日本の国の歴史を考えることでもある。その意味で幼児教育にやっと目が向けられ始めた昭和の始めを振り返ってみたい。

キーワード：絵本 キンダーブック 戦前・戦後

○ はじめに

今、日本における幼児教育には大きな変化がある。少子高齢化の波を受け、変わらざるを得ない状況にあるとも言える。その一例が「認定こども園」の増加であったり、「新幼稚園教育要領」の告示であったり、幼児教育も当然の事ながら社会の影響を真面にすぐ受ける。尤も良き方向に変化を遂げていこうとしているのだから問題はないかもしれない。安心して国家政策を信頼し任せておけばよいようにも思われる。しかし、戦後生まれの筆者であっても、その昔、貧しい日本、特に戦中・戦後の幼稚園や保育所における保育の実態は知らない。

ましてや豊かな社会に育った若い学生には知ろうはずもない。学生のみならず現場で活躍する保育者であっても然り、である。幼稚園教育が始まって170年以上にもなろうとしている。どこかで過去を振り返っておかないと、内外を問わず先人の苦勞を知っておかないと、前進のみだけでは保育は薄っぺらいものになるのではないか、不安が心の中をよぎった。

それではどのような方法で知ればいいのか？ここでは筆者自身にも思い出の深い「キンダーブック」を手立てに「今の豊かさが信じられない頃の幼児教育」を辿ってみようと思う。

戦後70年以上が過ぎた。戦後間もない昭和23年、わが国では『保育要領』を刊行し12の分野を示し保育を進めている。戦後の混乱期に幼児の教育を大事、と捉え創意工夫しながら保育の指針を示してきたことは敬服に値する。

以来、平成29年告示、平成30年4月より施行の新しい『幼稚園教育要領』まで6回も変遷

を遂げている。この『幼稚園教育要領』にはそれぞれの時代が反映されている。読めば読むほどに奥深く味わい深い内容であるが根底のところでは数々の変遷にも関わらず主義主張は変わっていないことが興味深い。

いつの時代であっても先人は「幼児の心」を大切にしてきた結果かもしれない。資料の乏しい貧しい時代の日本の保育であるが、今、『キンダーブック・復刻版』を手掛かりに「古の幼稚園教育」を辿ってみたいと思う。

1. 戦前の観察絵本『キンダーブック』からみる保育の流れ

(1) 昭和2年11月(1927)『キンダーブック』の誕生

昭和2年フレーベル館から『キンダーブック』が発刊された。この絵本は『月刊保育絵本』として幼稚園を通して配布される、というスタイルを取っていて現在でも発行され読み継がれている。またフレーベル館では昭和16年までのいわゆる戦前版『キンダーブック』のうち選択された40冊、そして創刊号、昭和7年発刊の『ツバメノオウチ』創刊号を『復刻キンダーブック』として発刊している。ここではそれらの絵本を参考に、戦前の「キンダーブック」の中から数冊を取り上げ当時の幼児教育の傾向や特徴を考えてみたい。

童謡と絵の募集

「ツバメノオウチ」は幼稚園と園児とお母様方を結び付けて、幼児教育の円満なる発育を助けたい希望から生まれたものであります。従って園児の作品なども、十分奨励したいと思いますので、全国の園児の作品、童謡と絵を送って頂いて、その中の優秀なものを紙上に掲載し評を加えて、皆様のご参考に供したいと存じます。左の規定に従って、園児の作品は保母先生方に、お家庭ではお母様方をお願いいたしますから、奮ってご投稿下さるようご面倒を見てあげて下さいませ。

◎規 定

注意 ここで童謡と申しますは、幼児が目に見物に感じて発せられた言葉の一駒であります。その一字一句を其のまゝ書きとってお出し下さればよろしいのです。決して筆を加えたりしてはいけません。

絵画 絵画は幼稚園又は家庭で、クレオンなどにて描いた写生又は記憶絵其のままお出し下さればよろしいのです。用紙は普通の画用紙がよろしいと思います。

この「キンダーブック」に添付された『ツバメノオウチ』についてはフレーベル館が社告(第四号第四巻 引用(2))の中で、「キンダーブックが『観察絵本』と銘打ち発刊されたとともに「併し、観察のみでは児童の情操教育の上に物足りない感がありますので、今度『ツバメノオウチ』を創刊してこれをキンダーブックに添付して、完全なものにしたいと存じます。」と述べている。その証拠にこの小冊子の中には、歌あり遊戯あり他にも指遊び、お話、子どものお料理、動物漫画、母親向けの園長先生の子育てアドバイスのものあり、と多種多様なジャンルで構成されている。『キンダーブック』は幼児へのメッセージ、この『ツバメノオウチ』は幼児を取り巻く大人へのメッセージ、といったところだろうか。作者も 北原白秋、初山滋、濱田廣介を始め名だたる作家の名が連なっており幼児教育の斬新な雰囲気漂っている。

「ツバメノオウチ」(北原 白秋)
 ツバメ ツバメ ツバメ ノ オウチ ハ アカライ オウチ
 オソラ ガ ミエテ コドモ ガ ムレテ
 ヨコ カラ ウヘ カラ オハネ ガ ユレル
 チイチクチ ハヨキテヨ チイチクチ オカアサン
 ツバメ ツバメ ツバメ ノ コドモハ カワイイ コドモ
 ネクタイ カケテ オクチ ラ アケテ
 アサ カラ ハヨ カラ オハネ ラ タタク
 チイチクチ ウレシイナ チイチクチ オカアサン
 「ツバメノオウチ」S6年9月フレーベル館発行 P2~3 引用(3)

北原白秋の詩は抒情的にツバメの親子の様子を詩っている。なんと可愛く長閑な情景だろうか。筆者も毎年6月頃には幼児と一緒に近隣の商店の軒下につくっているツバメの巣を見に出かけたものである。時折親ツバメが運んでくるエサをおとなしく待っている子ツバメや雨の中でも、おなかを空かせた子ツバメに一日中エサを運ぶ親ツバメに幼児は感嘆の声をあげる。「(端っこ) あの子ばっかりもらってる」「あかちゃんかわいいね」「ピーッ、っていったよ」と巣作りから巣立ちまで継続して見に行っていた。保育者としての自分自身はこの「ツバメ」の雛の誕生から巣作り、巣立ちの保育で何を感じてほしかったのか……。ツバメの生態？ツバメの観察？決してそうではない。幼児はツバメの雛を自分の姿に、親ツバメを自分の大好きな父母の姿に投影する。つまりツバメを見る事すなわち『観察』のみだと児童の情操教育の上に物足りない感がある」とはまさしくこの事を指しているのではないだろうか。ツバメの姿を借りて父母の子どもを思う姿や家族の大切さ、兄弟の楽しさ等々、感じてほしいと願ったのではないだろうか。なんと優れた鋭い指摘であるだろうか。この昭和初期において幼児教育の先駆者は幼子にとっては「観察」だけでなく「情操」すなわち「心の教育」が必要であることを示している。昭和一桁の時代からすでに90年も経とうとしている現代でも変わらない教育観ではないだろうか。

つまりこの「キンダーブック」に添付された「ツバメノオウチ」は幼児を中心に据えた保護者、保育者のあたかも「子育て支援」である。日本の「幼児教育」の幕開けとも言える。

ところでここで言う「観察」という保育の分野は、何を指しているのだろうか。
 「幼稚園教育要領」から探してみたい。

幼稚園数が増加するに従い幼稚園を制度化する要望が高まり、M32年6月には幼稚園の規模や設備、保育項目などについて規定した「幼稚園保育及設備規程」が省令として発令された。この規程で、幼稚園は満三歳から小学校に就学するまでの幼児を保育するところであることが明確化され、他にも・保育時数は一日五時間以内とすること・保母1人の保育する幼児数は40人以内とする・一つの幼稚園の幼児数は100人以内とし、特別の事情があるときは150人まで増加することができる・保育項目を遊戯・唱歌・談話・手技とする・建物は平屋造りとし、

保育室、遊戯室、職員室などを備えること 等々幼稚園教育が制度化された意味は大きい。また、大正15年の幼稚園令交付においても大綱は変わらず、昭和22年の学校教育法の制定まで我が国の幼稚園のあり方を法制上規定していた。この明治32年の法令では「観察」は盛り込まれていない。しかし大正15年4月に勅令として発令された「幼稚園令」には、遊戯・唱歌・談話・手技の4つの保育項目に「観察」が加わった。このキンダーブックも大正15年の「幼稚園令」を受け「観察絵本」として発刊されたのではないだろうか。

明治32年6月「幼稚園保育及び設備規定（省令）」「文部科学省学制100年」

～参考(1)～

(2) 実際の「キンダーブック」から考える

① 昭和2年11月（1927）第一編 お米の巻

この『第一篇 お米の巻』の内容は、当時の絵本が幼児の知識を増やす事を目的として知育を重んじて作成されていることが窺える。

表紙・・・ミレーの落ち葉拾い 扉・・・稲の標本（イネノミホン）

P4・・・米食の人種と動物 P6・・・籾蒔 〈以下略〉

例えば、日本人の主食である「米」がどう作られているか、田植えに始まり収穫、発送、食卓に並び美味しく食するまでが写実的に丁寧に幼児にとって分かりやすく描かれている。「ワルモノ セイバツ」のページでは、幼児の生活に身近で親しみのある猫や飛行機、石油タンクがユーモラスに描かれ、イナゴやバッタという害虫を退治する。他のページでは「兵隊さんのご飯焼き」「舌切り雀」「サルカニ合戦」など幼児が親しみやすく興味をもって読めるように工夫がされている。また、創刊号として日本の米を取り上げているのは興味深い。

② 昭和4年2月（1929）第九編 お人形の巻



この本の裏表紙には「人形ノ イロイロ」として 姉様人形や西洋人形、キューピー着せ替え人形 等々が描かれている。「人形のできるまで」とか「西洋人形の組み立て」「ヒナマツリ」「文楽座ノ人形芝居」「人形病院」など幼児にとって大好きな人形の全てが網羅されている号になっている。特にこの中でも興味深いのはP 2の「米国デ日本人形ノ歓迎」というページである。(原文のまま抜粋)

アメリカカラモラッタ オレイニ ニホンカラモ オニンギョウヲ タクサン
アメリカノ コドモニ オクリマシタ。ニッポンノ オニンギョウガ ウミヲ
ワタッテ アメリカヘ マキリマシタ。アメリカノ オジョウサンタチハ、「マア、
コンナ カハイイ オキヤクサマハジメテダ」ト ミンナ オホヨロコビ デシタ。
オニンギョウハ ドコノ マチヘ イッテモ ダイクワンゲイ ヲ ウケマシタ。

このページに記載されている文書は、昭和2年にアメリカから送られた「青い目のお人形」のお礼として日本人形を贈呈した時の歓迎ぶりを伝えている。

③ 「青い目のお人形」と昭和初期の日本の状況

この頃の日本はどのような状況だったのだろうか。昭和2年(1927)と言えば大正天皇の崩御とともに始まった歳である。大正12年(1923)には関東大震災が起り昭和4年(1929)には「世界恐慌」により経済的にも不安定な時代であった。あまり明るい出来事も見当たらないこの頃であった。子どもの世界はどうであっただろうか？

この頃、アメリカから、日米親善を目的とし1万3000体の人形が全国の小学校や幼稚園に送られた。不況で、暗い世相の中、人の心を明るくした「青い目のお人形」である。東京や各地で盛大な歓迎会が開催された。しかし昭和16年(1941)の開戦とともに「敵国の人形」としてほとんどの人形は焼かれてしまい今では全国に数百体しか残っていないとされている。

注：お菓子のグリコの玩具もこの頃発案されカードや面子、バッジ類など子どもの大人気となった。大人の暗い世界とは関係なく元気な子どもの世界があったようである。

〈青い目のお人形〉作詞：野口雨情 作曲：本居長世

青い目をしたお人形は アメリカ生まれのセルロイド

日本の港へ着いたとき いっぱい涙を浮かべてた

私は言葉がわからない 迷子になったらなんとしよう

優しい日本の嬢ちゃんよ 仲よく遊んでやってくれ 仲よく遊んでやってくれ

この「青い目のお人形」に対する答礼がアメリカへの日本人形のプレゼントである。

答礼の人形として都道府県ゆかりの名前が付けられた58体の日本人形がアメリカに贈られた。その後、太平洋戦が勃発し戦争の激化とともに「青い目のお人形」は「鬼畜米英」の象徴

とされ焼かれたり壊されたり捨てられたりし今では全国に30体ほどしか残っていないとされている。

当時の幼児教育者はこの「人形の巻」を通して人形に対する知識のみならず「ヒナまつり」「ママゴトアソビ」「五ガツノオセック」「オリンピアノゲーム」などと幼児の知識を増やすとともに人形に対して愛しい気持ちを抱けるような情操教育をも大切にしていたことが分かる。

④ 昭和5年12月（1930）第九編 職業〈シゴト〉の巻

この絵本の中に取り上げられている職業は

カジャサン（鍛冶屋） イシャサン クツヤサン ニンギョウヤサン
オクワシノコウバ（お菓子の工場） ペンキヤサン オフネガデキタ（お船が出来た）
デンシンコウフ（電信工夫） オヒャクショウサン レウシサン（漁師）
ダイクサン サクワンヤサン（左官） クワウザンシ（鉱山師）

これらの職業が昭和初期の子どもにとっては憧れの職業だったのだろうか？

また、当時は恐慌が世界中を襲い経済的に不安定な社会だった。そのせいだろうか、この巻に示されている職業は製造業的なものが多いのではないだろうか。同時に「仕事」と言えば男性中心の仕事ばかりが挙げられている。女性は家庭の仕事に従事していたのだろうか。

⑤ 昭和16年12月 第14巻九編 ハタラクヒト

まさしく真珠湾攻撃がなされ戦争の暗い時代へと突入するこの時代に発行された、この巻では幼児に何を伝えようとしたのか？倉橋惣三が表している裏表紙から引用してみる。

〈働く人の尊さと喜び〉 —お母さま方と先生方へ—

これからの子どもに、是非しっかり養って置かなければならないこと、そして、今日こそ十分にそれを養うことが出来るのは、働くこと、好んで働くこと、喜んで働くことです。昔は、働くといへば何だかいやなことでした。いやしいことゝさへ思はれたりもしました。とんでもないことでした。今日、働かないものはなまけものとして恥ずかしいことです。恥ずかしいばかりではありません。お國のために相済まないことです。國民はみんな働くのです。働くのが國民なのです。といふことを子どもの心にしっかり感じさせたいし、現に毎日、それを子どもの目に強く見せてゐるのが今日です。

～ 中 略 ～

私は特にこの巻を、渦中で働いておられる方々のご家庭と、そのお子さん方だけ集まってゐられる幼稚園に献じて、働く人の貴さと喜びとを、心から礼賛させていただきたくさへ思つてゐます。

倉橋惣三（1882～1955）は、日本の児童心理学であり、日本の幼児教育の先駆けとなった東京女子高等師範学校附属幼稚園（現・お茶の水女子大学附属幼稚園）で園長を務めた。また、フレーベル思想に影響を受け、日本の堅苦しかった幼児教育を改革していった。昭和16年は太平洋戦争の真ただ中であり、先駆的な思想を持っていただろう彼においてすらこのように「一億総火の玉」的な考え方をしていたこと、労働を尊いとすることなど現代の社会とは大きな違いがある。とにかくこの巻では、百姓、新聞配達、父親、母親、大工、警察官、父親の戦地から手紙を運んでくれる郵便配達人、市場の人たち、パン屋・・・大人の仕事の色々を幼児に紹介し、大人が如何に一生懸命汗だくで働いているか、みんな（幼児）は如何に彼らの労働のおかげで生活できているか、を知らせている。それにしても戦争中であり国民が団結して闘っている社会であったにもかかわらずこのように（内容は不問であるが）立派な絵本を発行しているのは大変な努力と勇気が必要だったことだろう。

⑥ 昭和19年1月発行「ミクニノコドモ」

昭和10年代発行のキンダーブックは従来の横長の判のもの縦長の版に替わっている。これは幼児にとってこの小さい版の方が手に取りやすいためか或いは小さくして紙を節約しているのだろうか。

敵国の言語である「キンダーブック」は使えず「ミクニノコドモ」と書名そのものを替えて出版している。このような戦時下においてもその時々それぞれの主題をもって発行を続けたということは素晴らしいと思う。



昭和12年9月



昭和16年12月



昭和19年1月



しかし戦況も厳しいものとなり、昭和20年の『キンダーブック（ミクニノコドモ）』は休刊された。

⑦ 昭和21年8月 キンダーブックの再刊 第1集第1編 ムギ

戦争が終わり混乱の続く社会であったが、同時に新しい国づくりに燃えた時代でもあった。戦前、戦中の教育とは全く異なった教育を目指し情熱をもっていた。「キンダーブック」も戦前の書名に戻り「KINDER-BOOK」と英語での表記もあり戦争が終わったことを感じさせる。

表紙には子どもたちが空を見上げ微笑んでいる。夢に溢れた明るい未来を示唆しているのかもしれない。希望に溢れた子どもの世界を感じさせる。



昭和21年8月



昭和25年1月



昭和27年11月



昭和27年12月

2. 昭和初期～戦後における幼稚園教育について

(1) 昭和初期の頃の就園率

ところで「キンダーブック」が発刊された頃の就園率はどうだったのだろうか。「キンダーブック」や「ツバメノオウチ」の内容から察してもこの頃の幼稚園はごくごく裕福な子弟の為の幼稚園であり、庶民には縁遠いような存在であったようだ。ここでは日本の国の「幼児教育のはじまり」も振り返りながら考えていきたい。

1872～76年に福沢諭吉が「学問のススメ」（全17冊）を著し「天は人の上に人を造らず」と民主主義的立国論を展開しこの本は多くの人に読まれ、当時の教育政策などにも大きな影響を与えた。当時、教育の大切さの機運も高まり1876年には、わが国最初の官立幼稚園である東京女子師範学校（現 お茶の水女子）附属幼稚園が開設された。また1878年（明治11年）には東京女子師範学校（現 お茶の水女子大）保母練習科を附設し、保母の養成が始まった。翌年1879年には「教育令」が制定され学制が廃止され、幼稚園はすべて文部省の監督下に置かれる。こうしてわが国においてもようやく幼稚園教育が始まろうとしていたが、まだまだ庶民が通うことのできない縁遠い存在であった。

〈就園率（5歳児）の推移〉

明治29	0.9%	明治39	1.4%	大正 5	2.4%	大正10	3.0%	大正15	6.0%
昭和 6	5.4%	昭和11	6.6%	昭和16	10.0%	昭和21	7.5%		
昭和36	33.0%	昭和51	64.0%						

やはり『キンダーブック』が創刊されたこの頃は5～6%の5歳児しか幼稚園に通えていなかった。しかし太平洋戦争の始まろうとしている16年においても10%まで向上しているのに折角の幼児教育の芽も開戦によって摘まれてしまった。全国の幼稚園は止む無く閉園する。

(2) 神戸市灘区を主とする幼稚園の状況

神戸市では、1876年に東京において幼稚園教育が始まって以来約10年後、明治20年（1887）に私立兵庫幼稚園と私立神戸幼稚園において幼稚園教育が生まれた。ドイツの教育家“フレドリッヒ・フレーベル”がチューリッゲン州バード・ブランケンブルグにて1840・6・28に始めて以来、約50年後、神戸市においても幼稚園教育が始まったのである。

神戸市における幼稚園教育で特記すべきは、アメリカの宣教師であったアニー・L・ハウ女史が保育界に与えた功績である。彼女は1887年に来日し、キリスト教的使命感とフレーベル主義の教育観をもって「頌栄保母伝習所」や頌栄幼稚園を設立した。また、日本初の福祉的幼稚園である善隣幼稚園を創設したタムソン女史とも親交が厚くJKU（日本幼稚園連盟）を設立し人材育成にも情熱を注いだ。良港がありいち早く海外に門戸を開いていた神戸市では、この時期すでに居留地があり、斬新な西洋の教育の影響をいち早く受けることが出来た。

灘区においては1905年（明治38）ランバス記念幼稚園が開設されている。ランバスとは関西学院やパルモア学院を創立したウォルター・ラッセル・ランバスのことで、今、王子動物園の西南角に神戸文学館として保存されているのが関西学院の発祥地である。

以後1920年（大正9年）には、町立西郷幼稚園が西郷小学校の一部を使用して開園、1928年（昭和3年）には西灘村立西灘幼稚園も開園され、両園とも1929年（昭和4年）には神戸市に移官され神戸市立西郷幼稚園、神戸市立西灘幼稚園として地元の支援を受けながら発展していった。全国的にみてもまだまだ就園率の低かったわが国において、神戸市の幼稚園教育に対する意気込みが感じられる。

国においては、大正15年に「幼稚園令」が公布され、幼稚園教育の重要性がようやく社会に認識され始めた時期である。灘区を始め神戸の中心部においては幼稚園が開園され幼稚園教育が始まっていた。にも拘わらず、少しずつ戦争の暗い影が幼稚園をも襲っていく。

折角開園された幼稚園であったが昭和16年の開戦により危険になり保育が出来なくなってきた。1945年（昭和20年）神戸の街が空襲を受け（神戸大空襲）西灘幼稚園は廃園、西郷幼稚園は休園となる。日本中の幼稚園が戦争の激化に伴って閉園乃至は休園を余儀なくされ暗い辛い時代へと突入していった。

(3) 戦後のベビーブームの到来など時代を映す幼稚園

1945年（昭和20年）戦争は終わる。すぐさま翌1946年（昭和21年）には西郷幼稚園が再開された。当時市内で再開された幼稚園が5園ある。新たな時代が始まろうとしていた。この時期、戦後の復興とともにベビーブームが到来する。急激に子どもが増えた時期であり、灘区内ではいわゆる“団塊の世代”が就園年齢に達した時に幼稚園が増えている。

1950年（昭和25年）稗田小学校の5教室をもって神戸市立稗田幼稚園が開園される。また、1967年（昭和42年）には廃園となっていた西灘幼稚園が神戸市立西灘小学校の併設園として

再開される。区内の私立幼稚園も次々と開園される。雨後の竹の子、という例えのように幼児が増え、幼稚園の必要性が増した時代であった。前出の「キンダーブック」も昭和21年に復刊されいよいよ新しい国づくりに燃えていた時代であった。

幼稚園教育もまだまだ幼稚園に入園していない幼児も数多くいたものの、1948年(昭和23年)「保育要領」が刊行され、『見学 リズム 休息 自由遊び 音楽 お話 絵画 製作 自然観察 ごっこ遊び・劇遊び・人形芝居 健康保育 年中行事』の12の内容が示された。戦後の混乱した時期であったにも関わらず保育の内容をこの様に12の分野に分けて示し、幼稚園教育の振興を図ったことは敬服に値する。この内容については70年以上経った現在でも生きている。以来約10年後、1956年(昭和31年)には「幼稚園教育要領」が刊行されここでは『健康社会 自然 言語 絵画製作 音楽リズム』と5領域に分けて示された。10年の間にすっきりと絞られたのではないだろうか。以来、少しの改定はあるものの延々と引き継がれているわが国の幼稚園教育である。

その後、神戸市内や灘区内の幼稚園も日本の国の成長とともに発展を続けてきたが、幼児数の減少の波を受け1984年(昭和59年)には西灘幼稚園をはじめ次々と休園となる幼稚園が増えてきた。一番大きな影響をもたらしたのは1995年(平成7年)の「阪神淡路大震災」で灘区や東灘区の幼稚園は壊滅的な被害を受けた。以後市内の幼稚園では幼稚園の統廃合が計画されていった。1999年(平成11年)には神戸市立西郷幼稚園と同稗田幼稚園を閉園し西郷幼稚園の場所に「灘すずかけ幼稚園」が2年保育を実施し開園した。

以上のように神戸市内の幼稚園もその時その時々を映し発展してきた。

3. 長く読み継がれている絵本にみる保育の流れ

(1) 幼児の大好きな絵本

1840年にドイツのフレーベルが始めたkinder-gartenであるが170年以上も経った現在、日本は日本独自の保育の方法で発展を遂げている。一例として今では珍しい絵本の絵本が発刊されている。ドイツで興りアメリカの宣教師によりもたらされた幼児教育であったが『キンダーブック』の歴史からも分かるように戦前から戦後にかけては幼児の読む絵本は種類も少なく勸善懲悪的な道徳を教える本が多かったかもしれない。また「絵本」が幼児の知識を増やす目的で謂わば小学校教育における教科書的な取り上げ方がされていたのではないだろうか。

しかし、1945年(昭和20年)戦争が終わり、次第に社会が落ち着きを取り戻すとともに幼児教育の大切さが認識され、1960年代を迎える頃には、百花繚乱(りょうらん)のごとく素晴らしい絵本が発行される。「絵本」が保育をするうえで大きな意味を持つことになっていった。一般に「優れた絵本」とは発行されて20年以上、幼児に読み継がれている絵本であると言われている。下に筆者が幼児とともに楽しんで読んだ絵本、思い出に残る絵本、幼児にその良さを教えてもらった絵本を思いつくまま挙げてみる。(※出版社、著者名は略、順不同)

ちいさいおうち	1954	14ひきのねずみシリーズ	1983
へんしんトンネル	2002	おしゃべりなたまごやき	1972
ジオジオのかんむり	1978	だるまちゃんとてんぐちゃん	1967
さんまいのおふだ	1985	じごくのそうべえ	1978
きんぎょがにげた	1982	三びきのやぎのがらがらどん	1841
ひとまねこざるシリーズ	1998	おたまじゃくしの101ちゃん	1973
たろうのおでかけ	1966	せんたくかあちゃん	1978
とこちゃんはどこ	1970	ぐるんぼのようちえん	1966
ももたろう	1965	ミッフィーちゃんシリーズ	1955
びかくんめをまわす	1960	かさじぞう	1966
おかあさんだいすき	1954	ゆきのひ	1969
どろんこハリー	1964	てがみをください	1975
はじめてのおつかい	1977	きかんしゃやえもん	1945
ぼちぼちいこか	1980	がたんごとんがたんごとん	1987
てぶくろ	1965	おおきなかぶ	1966
かばくん	1962	ねむりひめ	1963
でこちゃん	1999	ぞうくんのさんぽ	1977
いちごばたけのちいさなおばあさん	1983	わたしのワンピース	1969
スーホの白い馬	1967	しずくのぼうげん	1969
はなのすきなうし	1954	100万回生きたねこ	1977
モチモチの木	1971	八郎	1967
くれよんのくろくんシリーズ	2001	いたずらきかんしゃちゅうちゅう	1961
しょうぼうじどうしゃじぶた	1963	ともだちや	1998
きゅうきゅうしゃのびぼくん	1974	もりのなか	1963
ふらいばんじいさん	1969	こぐまちゃんえほん	1972
かにむかし	1976	ふしぎなたいこ	1953
いっすんぼうし	1965	かもさんおとおり	1965
グリラのパン屋さん	1991	ブルドーザーのガンバくん	1973
たまごのあかちゃん	1993	おおかみと七ひきのこやぎ	1967
おやゆびちーちゃん	1967	ぐりとぐら	1967

思い出すままに挙げた絵本であるがまだまだ続く。この中の一番若い絵本でも2001年発行の『くれよんのくろくん』シリーズである。これらの絵本を思い出しながらその時に読んだ情景や何より幼児の表情が次々と浮かんでくる。保育者である筆者が絵本を手にとると子どもがワッと膝元に集まってくる。「せんせ〜、きょうはなによむの?」「もういっかいよんで〜」時には一人で気に入りの絵本に見入っている子ども、母親に同じ本を買ってもらったと嬉し気に報告しに来る子ども、絵本の取り合いで幼児同士のケンかも起こった。

こう考えると絵本の持つ力は単に知識や語彙数を増やしたりするだけでなく「心」を育てるようである。幼児だけでなく人間の「心」を豊かに穏やかにしてくれる。また希望を感じさせ勇気を与えることだってある。これらの事を考え表中の書名を見てみると「優れた絵本」とは

次のようなことが言える。

- ・読んでいて気持ちが和む
- ・挿絵を見ただけで話の筋が分かる
- ・ヒヤヒヤドキドキ、スリリングである
- ・子どもの発想で描いている
- ・挿絵が美しい
- ・文章が簡潔で分かりやすい
- ・作者の言葉で語っている
- ・文章そのものが詩的な韻を踏んでおり読んでいて心地よい
- ・現実とは違う世界に連れて行ってくれる
- ・主人公の気持ちになれる
- ・結末はハッピーエンドで終わる
- ・話の展開に嘘がない

幼児は鋭い感性で絵本を読むのであろう。名作と言われている絵本はもう60年もそれ以上も経てなお幼児の支持を集めている。長く読み継がれている絵本のどれも上記の要素を満たしている。

(3) 『おかあさんだいすき』

(文と絵：まーじょりー・ふらっく 訳・編：光吉夏弥1954：岩波書店発行)

から考えられること

『おかあさんだいすき』は『絵本とはなにか』の中で「絵本というものを研究する人は、ぜひこの本をよく読んでほしいものです。～中略～ 幼児の日常生活の中での体験に共通する事柄からテーマを選ぶということは、絵本の場合大切です。

～中略～ この間のダニー（注：主人公）と家畜たちのやりとりはリズムカルな一定の間答のスタイルになり幼児はうたうような楽しみを感じさせ、すぐ覚えて、子どもたちがいっしょに声をあわせて唱えられるくらいです。文章にこのようなリズムがあり、そのリズムと物語の展開が緊密につながっていることは、絵本の構成として重要なことです。～中略～

物語の展開の中に使われている五回の繰り返しと筋の展開、物語の展開をなめらかにするリズムカルな文体、プレゼントする母と子の愛情などなど、まったく見事な設定と構成です。～中略～ 日常生活の感覚にピタリとあった表現の作者自身のさし絵が、

この物語にいっそう現実感を与えています。文と絵が一体となっているというのはこういう絵本ですし、子どもがはいってゆけるのもこういう絵本です。

(『絵本とは何か』 P97～99 一部引用)

松居の説く優れた絵本とは

- ・幼児の日常生活体験が活かされている
- ・文章にリズムがあって物語の展開をなめらかにする
- ・文と一体化したさし絵

こう考えると表中の絵本のどれもがやはり優れた絵本の要素をすべて持っている。

この『おかあさんだいすき』は保育をしているときにはこの良さに気付かなかったが、再度読んでみると他にも

- ・黄色を主とした暖色系のさし絵
- ・幼児の好きな“繰り返し”で筋が展開する
- ・ダニーが“お母さんの誕生日プレゼント”に何がいいかを相談する動物として、ニワトリ、ガチョウ、ヤギ、ヒツジ、メウシ、クマ と単に繰り返しだけでなくページを捲るごとに動物がだんだんと大きな動物になっていく
- ・テーマは大好きなお母さんの誕生日プレゼントという幼児には身近なものであること

この絵本はやはり優れた絵本の要素をすべて持っていると言える。

○ おわりに

昭和初期の戦前の保育を見てみるとそこには庶民は存在しない。裕福な子弟しか通えなかった幼稚園であったのだろう。一部の幼児の幼稚園であったが、日本が暗い時代に突入する頃、それなりの子どもの世界が感じられた。

遊びは兵隊さんごっこであったり暗い色彩であったり、絵本も英語は禁止されたり日本の伝統文化を強調したり、と当然の事ながら幼児教育もその時々を映している。

ただ日本の国の教育はどんなときにも手を抜いておらず一生懸命子どもの事を考えている。

幼児教育も戦後、ベビーブームの団塊の世代が幼稚園教育を受けている頃、西洋の模倣に留まらず独自の教育を打ち出している。5領域で示された『幼稚園教育要領』や素晴らしい絵本の登場etc.である。人間は窮地にあるほど力を出すのだろうか。戦後の混乱期であっただろうに熱気が伝わってくる。こうして日本の高度成長期とともに幼児教育も充実していった。

今、情報の社会で何でも手軽に知識を得ることが出来る。ネットでみれば世界中のことが安直に分かる。絵本の本質、保育の本質もともすれば情報の中に埋没し見失いそうである。『キンダーブック』を読んでいるとカタカナの文章やレトロな挿絵に胸が熱くなる。

この頃の子どもの方が絵本を読むことを享受していたのではないか。物があふれ何でも容易く手に入れられる社会である。こんな時こそ幼児には

- ・自分の力で考える
- ・敢えて不自由な体験をする
- ・経験の幅を増やす
- ・知りたい、やってみたいというやる気を大切にする

そして何より自分一人では何もできない、人と力を合わせ一緒に生きていく。

こんなことを伝えていきたいと思う。

〈参考文献〉

<http://moonmuseum.net/blue/tamako/history.htm>

『幼稚園百年のあゆみ』（文部省/編 [197-]）の巻末にある図

「就園率（5歳児）の推移と就学率の推移」

神戸新聞（2001 5月23日）

<https://blogs.yahoo.co.jp/muhuninaninasi/11860692.html>

<https://www.hoikuplus.com/post/usefulnurtureinfo/1340>

www.kinder.ne.jp/ayumi

〈引用文献〉

「ツバメノオウチ」第四号第四巻

『絵本とは何か』（松居 居著：1973年12月発行 日本エディタースクール出版部）

<http://www.bing.com/search?FORM=SWBW15&q=%E9%9D%92%E3%81%84%E7%9B%AE%E3%81%AE%E3%81%8A%E4%BA%BA%E5%BD%A2>